



霧ヶ峰の今とみらい

～ 霧ヶ峰再生のための基本計画 ～

平成 21 年 (2009 年) 2 月

霧ヶ峰自然環境保全協議会

はじめに

このたび、霧ヶ峰自然環境保全協議会（霧ヶ峰みらい協議会）による「霧ヶ峰の今とみらい～霧ヶ峰再生のための基本計画～」がまとまって発刊されることになり大変喜ばしく思うと同時に関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

思えば私が霧ヶ峰を初めて訪れたのは昭和30年代末頃で、上諏訪駅からバスに乗って行きました。ビーナスラインが出来る前です。その頃霧ヶ峰はどこを歩いても草千里、静寂でほとんど人影もなく、その素晴らしさに感動を覚えた記憶があります。私は縁あって信州大学（松本）に勤務することとなり、主に美ヶ原の草原の研究をしておりましたが、その後研究フィールドを霧ヶ峰に移しました。実は霧ヶ峰は戦前から、その特殊な自然が注目されて何人かの研究者によって植物相の研究や生態学的研究などが行われ、いろいろな成果が出ていましたが、植生学や動物生態学、自然保護など新しい学問的立場からの研究はまだ行われていませんでした。そこで研究室の学生とともに、様々な調査研究を霧ヶ峰でも徹底的に行いました。特に地形と植生の関係、帰化植物、樹叢など植物関係のみならず、動物生態学の研究者と協同で、ネズミやキツネの生態を調査していくつかの成果を上げることが出来ました。この頃、すでに霧ヶ峰はビーナスラインが開通し、最初に訪れたときの霧ヶ峰とは異なり、大きく変貌しておりました。それは観光的に大きく発展する一方で、膨大な車と人の到来による自然の変化です。具体的には草原の裸地化の拡大や外来種の繁殖、野生動物の生態変化です。また昭和30年代に採草と火入れが中止となり、植物遷移が進行して樹木が繁茂してきたことによるいわゆる森林化、逆に草原景観が次第に薄れてきたことです。最近ではニホンジカによる草原植物の食害、また3湿原における乾燥化や土砂の流入、野生動物による踏み荒らしなどがみられるようになりました。霧ヶ峰の自然はまた大事な観光資源です。その観光や利用の面でも様々な問題が起きてきました。平成14年にビーナスラインの無料開放を契機に更なる観光客の増加や管理の弱体化を懸念して、長野県による「ビーナスライン沿線の保護と利用のあり方研究会」が発足しました。その際に座長を引き受けさせて頂きましたが、自然公園である霧ヶ峰や美ヶ原の適正な保護と利用について関係者で熱心に論議され、その報告書が平成16年3月にまとめられました。その趣旨は歩いて親しむ自然公園として、両地で自然再生を図りこの美しい優れた高原の自然を未来に遺していこうというものでした。この提言に基づいて、美ヶ原では、霧ヶ峰に一步先んじて、美ヶ原自然環境保全協議

会が発足し、特に自然再生の名の下に以前のお花畑の景観を取り戻そうという調査や活動、また遊歩道の整備などが多くの人々の協力の下に進んで参りました。現在そのメインイベントとして、四季を彩る花々の咲く草原景観再生のために毎年500名以上の多数の参加者を得て、ササ刈り作業が行われています。

霧ヶ峰でも地元の皆さんの個々の活動はありましたが、先に述べたような問題が山積しておりましたので、同様な協議会の発足が待たれました。関係する団体の数が多く、種々の調整に時間がかかったようですが、県の自然保護課や諏訪地方事務所のご努力によって、多くのご賛同を得て平成19年11月に霧ヶ峰自然環境保全協議会が発足することが出来ました。その後参加された皆さんの熱意のもとに、何回となく協議会がもたれ、また3つの作業部会でも精力的に具体案が検討されました。一方、国の「地方の元気再生事業」に採択され、霧ヶ峰の自然や観光の実態調査や問題解決のためのいくつかの研究事業が並行して行われました。これらの協議会の諸事業はわずか1年数ヶ月という短い期間に遂行され、ここに基本計画としてまとめることが出来ました。これにつきましては協議会に参加された各団体や関係者の皆さんの霧ヶ峰を愛する熱意の賜であります。また諏訪地方事務所環境課の皆さんの多大なご支援、膨大なとりまとめ作業を頂けなければ協議会の運営と報告書の完成は不可能でした。改めて感謝いたします。これら多くの皆さんの思いが詰まったこの基本計画が、更なるご協力と連帯の下に計画から実施に移されるよう心から願っております。そのためにはまだ多くの課題がありますが、それらを乗り越えて新たに再生された霧ヶ峰が、いつまでも多くの人々に愛され、親しまれる高原として、みらい永遠に生きていくよう切に願っております。

平成21年(2009年)2月

霧ヶ峰自然環境保全協議会座長
土田勝義

目 次

はじめに	・・・	1 ページ
第 1 章 霧ヶ峰自然環境保全協議会設立と協議の経過		
1 霧ヶ峰自然環境保全協議会の設立	・・・	5 ページ
2 協議の経過	・・・	6 ページ
霧ヶ峰自然環境保全協議会規約		
霧ヶ峰自然環境保全協議会作業部会設置要綱		
3 平成 20 年度「地方の元気再生事業」の活用	・・・	18 ページ
第 2 章 霧ヶ峰の自然と歴史のあらまし		
1 霧ヶ峰の位置及び自然の特徴	・・・	20 ページ
2 霧ヶ峰の自然	・・・	20 ページ
(1) 草 原	・・・	20 ページ
(2) 湿 原	・・・	20 ページ
(3) 樹 叢	・・・	22 ページ
3 霧ヶ峰の歴史・文化遺産	・・・	22 ページ
第 3 章 霧ヶ峰の現状と課題		
1 自然の変容	・・・	24 ページ
2 観光と利用面の課題	・・・	24 ページ
霧ヶ峰の観光統計		
第 4 章 霧ヶ峰再生のための基本計画		
1 基本計画の構成と概要	・・・	30 ページ
2 霧ヶ峰保全再生計画	・・・	33 ページ
(1) この計画の位置づけ	・・・	33 ページ
(2) 霧ヶ峰の区域割～草原・湿原・樹叢と森林の調和～	・・・	35 ページ
(3) 草原・樹叢の保全再生方法	・・・	39 ページ
(4) 湿原環境対策	・・・	43 ページ
(5) 牧草地の在来植生復元	・・・	47 ページ
(6) 森林の管理方法	・・・	49 ページ
(7) 野生鳥獣被害対策	・・・	52 ページ
(8) 外来植物への対応	・・・	54 ページ
(9) 公園管理団体の設立	・・・	58 ページ

3 霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想	・・・	61 ページ
(1) この構想の位置づけ	・・・	61 ページ
(2) 霧ヶ峰の施設整備	・・・	62 ページ
(3) 魅力的な景観形成	・・・	65 ページ
(4) 案内板、看板等の統一デザイン	・・・	68 ページ
(5) 案内板、看板等の設置箇所	・・・	90 ページ
(6) 自動車渋滞対策	・・・	93 ページ
(7) ペット持込み対策	・・・	97 ページ
(8) ごみポイ捨て対策	・・・	100 ページ
(9) 自然への負荷軽減のための留意点	・・・	102 ページ
(10) 利用者負担のあり方	・・・	105 ページ
4 霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画	・・・	110 ページ
(1) 霧ヶ峰におけるエコツーリズムの意義	・・・	110 ページ
(2) この計画の位置づけ	・・・	114 ページ
(3) 霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置及び対象客	・・・	116 ページ
(4) 霧ヶ峰インタープリテーション指針	・・・	118 ページ
(5) 季節や日数に応じたコース・プログラムの例示	・・・	121 ページ
(6) エコツアーの実施体制	・・・	135 ページ
(7) 情報提供・情報発信体制	・・・	138 ページ